



# 第72回 ふれ愛シネサロン

児童虐待防止推進月間  
「女性に対する暴力をなくす運動」啓発映画会

パープルリボンは  
女性に対する暴力根絶の  
シンボルマーク



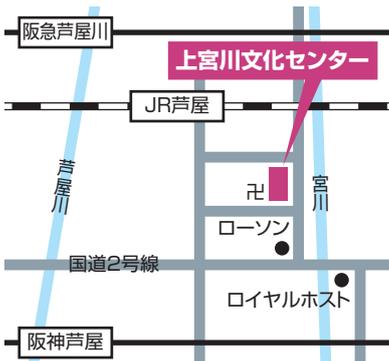
オレンジリボンは  
児童虐待防止の  
シンボルマーク

ひとりの子  
ふたりの母

# 夕陽のあと



監督 越川道夫  
脚本 嶋田うれ葉  
出演 貫地谷しほり  
山田真歩 ほか  
©2019長島大陸映画実行委員会



令和4年 **11月5日(土)** (2回上映・30分前開場)  
①10:00~12:20 ②13:30~15:50  
字幕はありません

上宮川文化センター 3階ホール  
芦屋市上宮川町10番5号 [駐車場はありません]

申し込み: 10月1日(土)から31日(月)まで電話で受付

\* 託児 (6か月~未就学児) / 定員各回3人  
\* 託児申込みは、10月31日(月)までに人権・男女共生課へ

要申込み  
**入場無料**  
各回150人

●土足厳禁のため上履きをお持ちください ●マスクの着用をお願いします  
新型コロナウイルス感染拡大の状況により、定員を変更する場合があります。

申し込み・問い合わせ/人権・男女共生課 TEL.0797-38-2055  
主催/芦屋市



母親であることを手放した女と、  
母親になると決心した女

——夕陽に染まった海原の向こうに、  
ふたりの願いが交差する

豊かな自然に囲まれた鹿児島県長島町。一年前に島にやってきた茜は、食堂でテキパキと働きながら、地域の子どもたちの成長を見守り続けている。一方、夫とともに島の名産物であるブリの養殖業を営む五月は、赤ん坊の頃から育ててきた7歳の里子・豊和（とわ）との特別養子縁組申請を控え、“本当の母親”になれる期待に胸を膨らませていた。そんな中、行方不明だった豊和の生みの親の所在が判明し、その背後に東京のネットカフェで起きた乳児置き去り事件が浮かび上がる……。

7年前に何があったのか？ “生みの親”と“育ての親”がそれぞれ体験する、子どもと離れる辛さと、お母さんと呼ばれる喜び。彼女たちはそれらを分かち合うことはできるのか？ そして、島の子としてすくすくと育った豊和の未来は——。家族のあり方が多様化する時代に、改めて親子の絆を問いかける骨太なヒューマンドラマが完成した。



貫地谷しほり×山田真歩  
×越川道夫監督

日本映画を支える  
実力派キャスト・スタッフが結集

茜役を演じるのは『くちづけ』の貫地谷しほり。五月役には『アレノ』の山田真歩。対照的な人生を歩む二人の女性を、映画やテレビドラマの第一線で活躍する二人の女優がひたむきに体現する。その他、五月の夫・優一役に永井大、その母親・ミエ役に木内みどり、町役場職員・秀幸役として川口寛が出演。物語の鍵を握る豊和役は、ロケ地・長島町でのオーディションで抜擢された演技初挑戦の小学4年生・松原豊和が演じる。

監督は『海辺の生と死』の越川道夫。現実社会でも後を絶たないDVや乳児遺棄、いまだに表立って議論されることが少ない不妊治療や養子縁組制度などの問題に正面から挑みながら、登場人物たちの心の機微をすくい取る演出によって、すべての世代・性別・立場の観客にあたたかな感動をもたらす普遍的な人間ドラマを作り上げた。



貫地谷しほり

山田真歩

松原豊和

永井大

川口寛

木内みどり

©2019長島大陸映画実行委員会  
2019年/日本/133分/カラー/ピスタサイズ

yuhinoato.com